

所属・氏名（ 健康科学部 医療栄養学科 氏名：齋藤 瑛介 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
<p>1 (学術論文) Greater consumption of noodle is associated with higher serum phosphorus levels: a cross-sectional study on healthy participants 《査読あり・筆頭論文》</p>	共著	2021, Jan	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition Vol. 68 pp. 78-85	<p>本研究により、主食の消費パターンは、腎臓病患者のための食事療法および動脈硬化進行予防のための食事療法において重要であるという新たな知見が得られた。若年健常者 109 名を対象に、習慣的な食事摂取状況調査、血清リン濃度および血清リン濃度調節因子を調査し、血清リン濃度に影響を及ぼす主食消費パターンの影響について、横断的に評価を行った。クラスター分析により、主食の消費パターンに応じた群分けがなされた。リンおよび線維芽細胞増殖因子 23 の血清レベルは高い麺類消費群で上昇していた。 Yosuke Saito, Masae Sakuma, Yuri Narishima, Takuya Yoshida, Hiromichi Kumagai, and Hidekazu Arai. 担当：ヒト試験・実験・解析・執筆</p>
<p>2 (学術論文) Habitual confectionery intake is associated with serum phosphorus levels: A cross-sectional study on healthy subjects. 《査読あり・筆頭論文》</p>	共著	2019, Feb.	The Journal of Medical Investigation Vol. 66 pp. 134-140	<p>本研究により、腎疾患の重症化予防および動脈硬化進行予防のための食事療法の新たな知見が得られた。本研究の目的は、若年健常者の血清リン濃度に影響を与える習慣的な食事性因子を、横断的に調査することである。若年健常者 109 人を対象に、空腹時採血および、簡易型自記式食事歴法質問票 (BDHQ) による過去 1 ヶ月間の習慣的な食事の調査を実施した。結果として、習慣的に高頻度の菓子類摂取は、血清リン濃度の上昇に関連することを見つけた。 Yosuke Saito, Masae Sakuma, Yuri Narishima, Takuya Yoshida, Hiromichi Kumagai, and Hidekazu Arai. 担当：ヒト試験・実験・解析・執筆</p>
<p>3 (学術論文) The influence of probiotics on individual fecal secondary bile acid levels: a two-case study of schizophrenic patients receiving an atypical antipsychotic drug 《査読あり・筆頭論文》</p>	共著	2017, Nov.	Functional Foods in Health and Disease Vol. 7 pp. 849-858	<p>本研究により、高コレステロール血症の治療および大腸癌と胆石症予防のための、食事療法の新たな仮説が得られた。プロバイオティクスは、抱合型一次胆汁酸の脱抱合に重要に関わっており、これは胆汁酸の排泄の増大に関与する。胆汁酸はコレステロールから合成されるため、プロバイオティクスによる血清コレステロール低下効果が期待されている。脱抱合された遊離型一次胆汁酸はさらに二次胆汁酸に変換される可能性があり、これは大腸癌と胆石症のリスクに関連する可能性が示唆されている。本研究は、脂質異常症患者を対象に、糞便中胆汁酸濃度に及ぼすプロバイオティクスの影響を試験した。患者の一人において、介入後の糞便中二次胆汁酸濃度の著しい上昇が観測された。 Yosuke Saito, Hiroyuki Nishimiya, Yasue Kondo, and Toyoaki Sagae. 担当：解析・執筆</p>